

本市の不登校の現状

資料 2

1 不登校児童生徒の推移（過去 10 年間）

文部科学省が実施している「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」による本市の不登校児童生徒の状況は以下のとおりである。

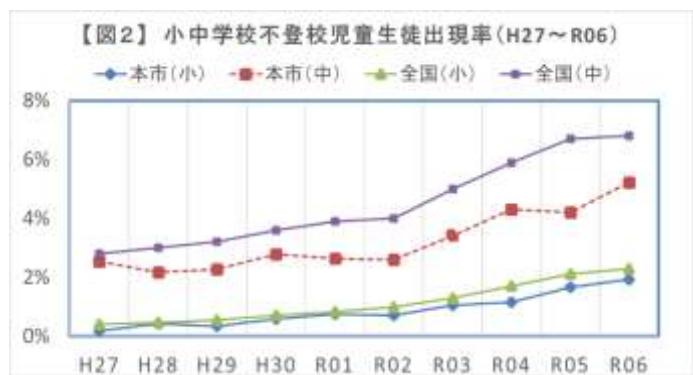


図1に示すように、本市の不登校児童数は10年前に比べて、約6.8倍、不登校生徒数は、約1.9倍となり、どちらも増加傾向にある。

不登校児童生徒の出現率は図2のとおり、全国に比べると低いものの、全国と同様に増加傾向にある。令和2年度から令和6年度にかけ小学生は約2.7倍、中学生においては、約2.0倍となっている。

2 不登校の要因

不登校や不登校傾向の背景や要因は、複合的であり、状況によって変わることも考えられることから一面的な捉え方はせず、あくまでも傾向として、今後の支援の参考とする。本市で、要因の上位となっているものは以下のとおりである。

(1) コロナ禍に関係なく主な要因として考えられる要因

「友人関係」「学業不振」「親子の関わり」「無気力・不安」

(2) コロナ禍で見られるようになった要因

「学校のきまりなどをめぐる問題」「入学・転編入学・進級時の不適応」

「家庭内の不和」「生活リズムの乱れ」

また、いちょう学級教育相談員の聞き取りからは、不登校になったきっかけとして、「クラス替え」「きょうだいの卒業」「信頼していた担任などの異動」「ゲーム依存」等も挙げられている。